

参加者アンケート

会場参加者から

- プラットフォームの概念を理解できた。一方で、インクルーシブな環境実現のためには、いわゆる健常者が門戸を開くだけでなく、障害者側の障壁を取り除くことも必要だと感じた。
- アイヌ語ミニ講座が楽しかった。また、ドローンサッカーも興味があった。高等支援学校などでも体験させてあげて欲しい。
- それぞれの地域性、背景、環境が違うため、すぐに参考にしたりまねしたりしなくても良いと思うが、まずは様々な取組を知ることが大切であり、各実践は大変興味深く感じた。
- 毎年、楽しみにしている事業、今回は初めて会場で参加したが、やはりリアルで得られるものがあると実感した。想いのある人たちが集う空気のおかげで、前向きで温かくて、自然に集中でき、ポジティブに思考することができた。

オンライン参加者から

- つながりが大切なことが皆さんのお話から伝わってきた。「はじめから障害のある人とない人を分けなければ良い」というお話は、その通りだと思った。当事者としていろんな場面に参加し、見慣れてもらうことを続けて行きたい。
- どの実践も素晴らしく、これが広まっていくにはどうしたら良いかと考えていた。正解は出ないと思うが、せっかくなので、これまでのコンファレンスの成果としても、参加した各々がほんの小さなアクションでも、何か一つ新たな行動を促しても良かったかもしれない。
- 障害当事者として支援を必要としている状態で、将来社会に出て仕事や社会生活を送ることにに対して漠然と不安を感じていたが、活躍されている先輩方のお話を聞いて、自分もどうにか自立した生活を実現したいと思ったので、それに向けて必要な支援を整理し、奮闘していこうと思った。
- 常に当事者を大切に、生活を第一にみんなで考える会議だと感じている。現在は保護者の立場だが、いつ当事者になるか分からないし、垣根はそもそも無いことに気付かされる。最新の制度について携わっている方からのお話も伺うことができ、社会全体に意識が向いて孤立感が薄れる。道南地域でも何かあればと思う。次回も参加したい。

文部科学省主催「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」
令和5年度共に学び、生きる共生社会コンファレンスin北海道 実施要項

- 1 テーマ 「北海道における障害者の生涯学習～過去・現在・未来～」
- 2 趣 旨 平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえて、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、道内の持続的な生涯学習活動推進のための研究協議や実践の交流等を通して、実践内容の分析・共有、取組の充実を目指す。
- 3 開催日時 令和6年(2024年)2月3日(土) 10:30～16:00
- 4 会 場 札幌市生涯学習センターちえりあ(北海道札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10)
※YouTubeライブ配信を利用したオンラインでの参加も可能
- 5 主 催 文部科学省、北海道教育委員会
- 6 主 管 医療法人稲生会
- 7 参加対象 どなたでも(障害のある方及びその家族、行政担当者、社会教育主事、公民館その他社会教育施設職員、特別支援学校等教職員、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員、企業、NPOその他関係団体や実践に関わる方等)

8 日程及び内容

	10:30	10:40	10:50	11:00	12:10	13:40	15:55	16:00
開 会	第1部			第2部		第3部		閉 会
	(1) 説明①	(2) 説明②	(3) トーク セッション	(4) カフェサボッチャ		(5) パネルディスカッション		
	講堂(6階)			大研修室(2階)		講堂(6階)		

※第1部及び第3部には、手話通訳が付く予定です

- (1) 説明①:「共に学び、生きる共生社会の実現に向けて」
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
- (2) 説明②:「本事業の概要について」
北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
- (3) トークセッション:「北海道における障害者の生涯学習推進～過去・現在・未来～」
NPO法人コミュニティワーク研究実践センター 理事 宮崎隆志氏
医療法人稲生会 理事長 土島智幸氏
北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川 社会教育主幹 尾山清龍氏
- (4) カフェサボッチャ:誰でも参加可能な発表、展示、体験ブース
(お昼休憩を兼ねておりますので、御自由に参加ください。)
- (5) パネルディスカッション:「北海道内各地の実践～過去・現在・未来～」
いっしょにね!文化祭実行委員会 事務局 田島美穂氏
Uスタイル北海道プロジェクト DEI&Sアドバイザー 鹿野牧子氏
NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所 代表理事 五十嵐真幸氏
みらいづくり研究所 学びのディレクター 松井翔惟氏

- 9 申 込 令和6年(2024年)1月26日(金)まで
※右の二次元バーコードからお申し込み可能です。
※当日の飛び入り参加も可能です。
- 10 その他 当日の写真や映像については、ホームページや報告書等で活用する場合がありますので、予め御了承ください。



令和5年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道

北海道における障害者の生涯学習 —過去・現在・未来—

今年で5回目を迎える共生社会ブロックコンファレンス in 北海道。今回は、これまでの取り組みを振り返り、道内で行われている様々な生涯学習の実践から学び、北海道における共生社会の実現を目指して未来の形を考えます。

日時

2024年2月3日(土)

10:30~16:00 (10:00 受付開始)

オンライン
同時配信
あり

参加
無料

どなたでもご参加いただけます
※当日の飛び入り参加も可能

参加申し込み方法は
裏面をご覧ください。

10:30~12:10

第1部

同時配信
あり

トークセッション：手話通訳あり

「北海道における障害者の生涯学習推進 ～過去・現在・未来～」

- ▶ NPO法人コミュニティワーク研究実践センター 理事 宮崎 隆志 氏
- ▶ 医療法人稲生会 理事長 土島 智幸 氏
- ▶ 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川 社会教育主幹 尾山 清龍 氏

12:10~13:40

第2部

会場中継
あり

Cafe サボッチャ (お昼休憩～ご自由にご参加ください)

- ▶ 各種展示・体験ブース
(EyeMoT、バリアフリー図書、ミニアイヌ語講座、他)
- ▶ コーヒー & スイーツ
(はるまき、パウンドケーキ、ドーナツ)



13:40~16:00

第3部

同時配信
あり

パネルディスカッション：手話通訳あり

「北海道内各地の実践 ～過去・現在・未来～」

- ▶ NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所 代表理事 五十嵐 真幸 氏
- ▶ いっしょにね！文化祭実行委員会 事務局 田島 美穂 氏
- ▶ Uスタイル北海道プロジェクト DE I & S アドバイザー 鹿野 牧子 氏
- ▶ みらいつくり研究所 学びのディレクター 松井 翔惟 氏

会場

札幌生涯学習センターちえりあ (6F 講堂)

北海道札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10 (地下鉄東西線 宮の沢駅直結)

主催：文部科学省、北海道教育委員会 主管：医療法人稲生会

これまでのコンファレンス...



「ともに学ぶ共生社会を目指して
～社会教育の実践を通じたコミュニティの可能性～」

初年度は「社会教育」をテーマに開催をしました。北海道には、すでにたくさんの「ともに学ぶ」実践があるはず。そんな実践と実践が、「社会教育」「コミュニティ」をキーワードに、緩やかにつながり合う方法について考えました。



2019年度



「コロナの時代における ともに学ぶ共生社会を目指して
～社会教育の実践を通じたコミュニティの可能性～」

「アフター・コロナ」という言葉が聞かれ始めていた2020年度は、あえて第1回のテーマを引き継ぎ内容で開催をしました。「ともに学ぶ・生きる」といった言葉の意味が揺らいでいるこの時代に、私たちには何ができるのかについて考えました。コロナ前後の比較をしつつ、オンラインを活用しながら、今後のコミュニティのあり方について提案し、議論しました。



2020年度



「障害のあるひと ないひと
みんなでひろげよう 北海道の社会教育」

前年度に引き続き、全面オンライン開催となった2021年度。テーマに「みんなでひろげよう」とあるように、北海道各地で行われている11の実践を紹介し、参加者全員でアイデア会議（グループワーク）を行いながら、ともに学ぶ場を広げるための方法を話し合いました。午後には5つの分科会を開催し、分科会ごとに切り口を変えて、「ともに学ぶ」ための方法の検討をしました。



2021年度



「体験！探検！レッツ共生！ウェルカム トゥ ザ マルチバース」

2022年度は「マルチバース」をテーマにしました。障害の有無、障害種別、職種や立場など、私たちの身の回りには様々な「違い」があります。「同じはずなのになぜ違うのか」を課題にするのではなく、「その違いをどう楽しむのか」といった発想で企画をし、11の分科会を探検するようにして楽しむ構成で実施しました。



2022年度

2023年度

「北海道における障害者の生涯学習 ー過去・現在・未来ー」

お申込み

右記の2次元バーコードより必要事項をご入力の上、お申し込みください。
※入力が難しい場合は下記にお問い合わせください。

締切：2024年1月26日（金）まで

参加申込フォームはこちら



※当日は自由な服装でお越しください。

※コンファレンス当日の写真や画像については、HPや報告書等で活用する場合がございますので予めご了承ください。

コンファレンスに関する問合せ

医療法人稲生会（いりょうほうじんとうせいかい）

〒006-0814 札幌市手稲区前田4条14丁目3-10

TEL 011-685-2799

取組 4

障害者の学びに関するニーズや実態、地域の学びの環境に関する調査研究の実施

学校卒業後の学びの場の整備を進めるためには、全道各地で展開される取組の現状及び課題の把握が必要であるため、教育委員会の社会教育担当職員を対象とするヒアリング調査を実施した。その結果については、地域連携コンソーシアム会議において報告するとともに、今年度発行するリーフレットの作成に活用した。

1 市町村の社会教育担当職員等へのヒアリング調査

○目的

道内の障害者の生涯学習活動の推進に係る取組について実態調査を行い、効果的な取組事例を発信することで、各市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた様々な取組の展開を図る。

○道内市町村の取組事例

- ・北広島市（石狩管内）「スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ」
ボッチャ、ゴールボール等のアダプテッド・スポーツを障害者・健常者みんなで楽しむスポーツ大会を実施。200人を超える参加者が集まった。
- ・別海町（根室管内）「ニュースポーツ&パラスポーツ体験会」
障害の有無に関わらず誰もが気軽にスポーツできる機会として、モルックやボッチャ等のニュースポーツ・パラスポーツに親しむ場を提供している。
- ・新ひだか町（日高管内）「障がい者乗馬支援事業」
馬との触れ合いや乗馬体験を通じた健康づくりや生涯学習などを目的に実施しており、福祉施設利用者や特別支援学校の生徒に好評である。
- ・せたな町（檜山管内）「インクルーシブスポーツ交流会」
みんなでスポーツを楽しみながら障害への理解を深め、地域の共生と今後の支援連携体制づくりについて考えることを目的に開催する。

2 先進的な取組を実施している施設・企業・団体における取組の現地調査

○国立市公民館（東京都）（6月10日（土））

- ・青年の活動をベースに、障害者本人が加わって展開されている「コーヒーハウス」の具体的な内容や社会教育主事の支援の在り方等の調査

○「いっしょにね！文化祭」（いっしょにね！文化祭実行委員会）（10月7日（土））

- ・ダンス、歌、演奏等のステージ発表と絵画、工芸品の作品展示など、日頃の学習の成果を発表する機会における当事者の生きがいがづくりや活動実態の調査

○「HAKODATE COLLECTION 2023」（函館女性会議主催）（12月3日（日））

- ・障害の有無に関わらず、誰もがファッションショーのモデルとして参加できるイベントの運営の在り方の調査

3 現地調査等の成果を生かした、市町村向けリーフレットの発行

○現地調査や地域連携コンソーシアム会議の協議内容をもとに、市町村等に向けたリーフレットを新たに作成するとともに、次年度以降、リーフレットを活用して、道立の社会教育施設等において、受入体制を向上させる取組を実施する。

令和5年度（2023年度）「障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業」

道内市町村の社会教育担当職員等へのヒアリング調査

1 調査の目的

道内の障害者の生涯学習活動の推進に係る取組について実態調査を行い、効果的な取組事例を発信することで、各市町村における障害者の生涯学習の推進に向けた様々な取組の展開を図る。

2 調査の概要

(1) 調査日及び調査場所

- ・道央会場 令和5年9月21日（木）、22日（金）、北海道立道民活動センターかでの2・7
- ・道南会場 令和5年9月7日（木）、8日（金）、上ノ国町総合福祉センタージョイ・じょぐら
- ・道北会場 令和6年2月9日（金）、オンライン
- ・道東会場 令和5年9月21日（木）、22日（金）、十勝教育研修センター

(2) 調査内容

「各管内における、障害者の生涯学習に関する実態について」

- ・市町村教育委員会や社会教育施設等で行われている取組の概要
- ・連携・協働体制、講座の運営における工夫、取組を継続させる上での課題など

(3) 調査方法

ヒアリング調査

(4) 調査対象

市町村の社会教育担当職員、社会教育関係者 等

3 調査した取組 ※空知・後志・十勝・釧路管内については本報告書の別ページで紹介する。

(1) 石狩管内・北広島市の取組について

- ・取組名 スポーツの秋！みんなのスポーツフェスタ
- ・日時等 令和4年10月15日（土）、北広島市総合体育館
- ・概要 ボッチャ、ゴールボールなどのアダプテッドスポーツを障害者・健常者が共に楽しむことのできるスポーツ大会
- ・成果 200人を超える参加者が、共生社会の実現に向け、障害者と障害者の学びへの理解を深めることができた。

(2) 胆振管内の取組について

- ・取組名 障がい者が講師となるプログラム～みんなが先生、みんなが学ぶ～
- ・日時等 令和6年度実施予定
- ・概要 障害者就労支援施設で専門的な技術を学び身に付けた障害者が講師となる講座
- ・成果 障害者が講師として活躍する機会を創出するため、手話教室やパラスポーツ体験などの具体的な事業企画を考えるなど、今後の取組実施に向けた研修を実施した。

(3) 日高管内・新ひだか町の取組について

- ・取組名 障がい者乗馬支援事業
- ・日時等 通年、新ひだか町ライディングヒルズ静内

- ・概要 障害児・者の健康づくりや生涯学習の機会充実を目的とした、馬との触れ合い活動や乗馬体験
- ・成果 本事業を利用する福祉施設職員から、「乗馬がある日は利用者が特に元気で表情が明るい」という感想が寄せられるなど、学びが日常生活に好影響を及ぼしている。



(4) 渡島管内・北斗市の取組について

- ・取組名 道南サップセッション
- ・日時等 令和5年7月16日(日)、七重浜海水浴場
- ・概要 児童及び車いす利用者を対象に、パドルの使い方をはじめとした、多彩なメニューを体験できるサップイベント
- ・成果 道内で初となるアウトドア用車いすを用いたサップ体験には、障害者も参加し、日頃体験することの少ないマリンスポーツに挑戦する機会になった。

(5) 檜山管内・せたな町の取組について

- ・取組名 インクルーシブスポーツ交流会
- ・日時等 令和4年8月1日(月)、北檜山町民体育館
- ・概要 共生社会の実現と福祉・教育関係者も含め今後の支援体制の構築について考えることを目的とした、障害の有無にかかわらず参加できるスポーツイベント
- ・成果 町内障害者支援施設、学童保育所(支援児舎)等からの参加も得ることで、障害者理解や支え合いの重要性について、地域住民が理解を深めた。

(6) 上川管内・名寄市の取組について

- ・取組名 ふれあい広場2023なよろ
- ・日時等 令和5年7月2日(日)、名寄市総合福祉センター
- ・概要 障害や年齢に関わらず支え合うノーマライゼーションの普及を目的とした、交流イベント
- ・成果 障害者が活躍できる機会を増やすだけでなく、障害者と共に暮らす共生社会の実現に向けて何をすべきか考える機会となった。



(7) 留萌管内・小平町の取組について

- ・取組名 高等養護学校におけるスポーツ体験教室
- ・日時等 令和5年11月20日(月)、北海道小平高等養護学校
- ・概要 小平町スポーツ推進員からの協力を得た、運動能力向上や生徒同士の交流を深めるために開催したキンボールの体験教室
- ・成果 生徒同士が協力して取り組み、基本的な運動能力の向上を図ることができた。

(8) 宗谷管内・稚内市の取組について

- ・取組名 『広報わっかない』の音訳CDの送付
- ・日時等 毎月、稚内市立図書館
- ・概要 音訳ボランティア「声の図書館」が、市内在住の目の不自由な方へ『広報わっかない』や、希望者からのリクエストのあった小説等の音訳活動
- ・成果 市の広報紙やリクエストのあった小説等を音訳することにより、障害者が本に親しむとともに、読書活動に対する興味や関心を高めている。

- (9) オホーツク管内・網走市の取組について
- ・取組名 障がい児・者スポーツ教室
 - ・日時等 毎月1回、網走市総合体育館
 - ・概要 小学生以上の障害者とその家族・関係者を対象とした、卓球・フロアカーリング・フリスビー・ボッチャ等の体験教室
 - ・成果 網走市スポーツ推進員からの協力を得た取組にすることで、障害者やその保護者のニーズに応えた、スポーツを体験する機会を提供している。
- (10) 根室管内・別海町の取組について
- ・取組名 ニュースポーツ&パラスポーツ体験会
 - ・日時等 令和5年7月15日(土)、別海町町民体育館
 - ・概要 障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に参加できる、モルックやボッチャ等のニュースポーツやパラスポーツの体験会
 - ・成果 ニュースポーツやパラスポーツを、障害者や青少年・高齢者に広く普及するだけでなく、障害者と健常者の交流を深める機会になっている。

4 調査の結果

(1) 開催場所

開催場所については、教育委員会が実施する講座やイベントの場合は、公民館や図書館等の社会教育施設のほか、公立体育館や学校での実施が多く、社会福祉協議会等の福祉の団体が主催する場合には、社会教育施設に加えて社会福祉施設において開催されることが多い。

(2) 運営、連携・協働体制

運営、連携・協働体制については、教育委員会が実施する場合には、教育委員会職員が社会福祉協議会や福祉部局からの協力を得て行うケースが多い。また、参加者一人ひとりの障害にあった支援や配慮を行うため、保護者の会や特別支援学校と連携・協働体制を構築するケースが多いことが分かった。

(3) 講座の参加対象と形態

講座の参加対象については、障害のあるなしに関わらず、誰もが参加できる講座が多く、形態については、ニュースポーツやパラスポーツで体を動かすなど、比較的取り組みやすい体験活動を多く取り入れ、障害者と健常者の交流の場としていることが多い。

(4) 参加にかかる費用

参加にかかる費用については、大学等が行うオープンカレッジや公開講座を除いて、材料代や保険料などを事業ごとに徴収しているケースが多い。

教育委員会や社会福祉協議会などが講座を開催する場合には、内部人材や地域の協力者を講師に招聘することで、講師謝金を減らし、参加者から徴収する金額を抑える工夫をしている。

(5) 参加者の募集

参加者の募集については、教育委員会が実施する講座については、市町村の広報誌やホームページを活用して周知するケースが多く見られる。

また、障害者やその家族の多くは、友人・知人・家族が参加したり、これまでに講座に参加した方からの口コミを参考にしたりしていることが分かった。

(6) 講座の運営における工夫点

講座の運営における工夫点については、次のような内容が多く寄せられた。

- ①多様な課題に対応するプログラムの提供
- ②誰もが参加しやすい環境の整備
- ③参加者同士の交流の場の設定

(7) 取組を継続させる上での課題

取組を継続させる上での課題については、次のような内容が多く寄せられた。

- ①専門的な指導者の確保
- ②運営体制の強化
- ③講座の内容の充実
- ④効果的な広報のあり方（一般公募で自主的な参加者を募るために）

5 考察

(1) 障害者の生涯学習における障害当事者のニーズについて

障害者の生涯学習としてパラスポーツやニュースポーツ、軽スポーツに取り組む事例が多く見られた。障害者と健常者が共に汗を流し、相互理解を図る場を設定することは、障害の有無にかかわらず社会参加や活躍の場づくりができるだけでなく、障害者の学びを支援する人材育成の基盤ともなる。

しかしながら、様々な好事例はあったものの、「障害者のニーズ」という視点から見ると多くの課題があると考えられる。例えば、障害者の生涯学習におけるニーズの一つに「PCスキルの獲得」がある。現代社会において、パソコンは情報収集やコミュニケーションの手段として欠かせないものとなっており、社会参加や自己実現のための様々な活動のために欠かすことができないと言える。しかし、パソコンを使うための環境整備や、専門的な指導者の確保などの課題もあり、そのような場の設定がされている事例は少ない。

このようなケースからも、まずは障害当事者のニーズをしっかりと把握したプログラムの開発が必要である。

(2) 「障害者の生涯学習」の今後の展望について

本調査によって、多くの連携・協働によって障害者の生涯学習が取り組まれていることがわかった。ただ、現状としては、特別支援学校等との連携によって参加者を確保していることも多く見られるため、障害者自らが主体的に参加できるよう、今後さらに取組を充実させていく必要がある。そのためのポイントとなるのは「障害当事者の参画」であると考えられる。

「障害当事者の参画」とは、障害者が自らの学びの目的や内容、方法、場所、期間などを選択することに加え、プログラムの企画等にも関わりながら、主体的に学習活動に参加することである。そのために、障害者の学びのニーズを把握し、個別化されたプログラムの作成や評価を行ったり、障害者のアクセスしやすい環境や支援体制を整備したりする必要がある。そして、障害当事者の声をしっかりと受け止めた学びの場づくりを進め、障害者が学びの成果や経験を発信でき、社会的な評価や承認が得られる機会を創設することが望まれる。

「障害当事者の参画」は、障害者の生涯学習の質や効果を高めるだけでなく、障害者の人権の保障と社会的な貢献の両立を可能にする重要な要素である。

取組 5

特別支援学校等における児童生徒の生涯学習の意欲向上に資する取組の実施

生涯学習に対する意欲向上については、在学中から学びの場に参加し、生涯学習への意欲を高める取組を継続することや、地域における学びの場の整備がともに必要である。今年度の地域連携コンソーシアム会議では、学校と社会の接続の在り方などについても議論を深め、次年度以降の取組の方向性を確認した。

1 特別支援学校や大学等が地域とともに行う学びの機会拡充の取組

○北海道札幌あいの里高等支援学校

- ・取組名：あい circle
- ・内 容：学科製品の販売、カフェ営業、ステージ発表等、地域の団体と連携・協働して実施したイベント

○北海道真駒内養護学校

- ・取組名：地域を共に進める取組・協働活動
- ・内 容：フラワースマイル作戦、一日防災学校など、地域と連携・協働した、学びと交流の機会

○北海道教育大学札幌校

- ・取組名：キンダーぷらっつ
- ・内 容：大学の教育機能を活用した、運動遊びや季節のイベントなど、障害の有無に関わらず参加できる余暇を生かした講座

○北海道文教大学

- ・取組名：チャレンジド教室
- ・内 容：障害のある児童・生徒を対象にした、学校外の学びや居場所を生み出すための講座

2 卒後のキャリア支援と生涯学習アクセシビリティ向上

○株式会社特殊衣料への現地調査

- ・労働分野におけるアクセシビリティ向上につながる取組について、障害者雇用と働きやすい職場の環境づくりに取り組む企業へのヒアリングを実施して、課題を整理した。

○地域連携コンソーシアム会議（第2回及び第3回）での協議

- ・各種会議や調査において、多くの関係者から学びの場へのアクセスを向上させる重要性を提起されたことから、協議テーマに設定した上で、今後の方策について検討した。

3 特別支援学校の学校運営協議会や障害のある子どもを持つ保護者が集う機会における情報提供

- 障害のある子どもが、在学中から学びの場に参加し、学校卒業後の学びに対する意欲を高めることの重要性について情報提供を行った。

学校名

北海道札幌あいの里高等支援学校

取組名

あいcircle

趣旨

地域と連携・協働して実施する「あいcircle」の取組は、各学科で製造した製品の販売や学習活動の発表などを行い、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した地域協働の取組である。

この取組は、大学等の高等教育機関、社会教育や文化およびスポーツ、企業、福祉などと密接な連携を図り、学びと活動のサイクルを意識するとともに、学校教育の段階から生涯学習の意欲を向上させる取組となっている。

取組内容

○日時・会場

- ・日時 1回目 7月22日(土) 10:00~14:00
- 2回目 11月11日(土) 10:00~12:30
- ・会場 1回目 北海道教育大学札幌校
- 2回目 北海道札幌あいの里高等支援学校

○取組内容(下記は2回目の内容の一部)

- ・販売・体験等
 - 地域の団体や企業に加えて、同校生徒が教育課程の中で取り組んだ学習成果を披露する機会になっている
 - 生産技術科 …小鉢など窯業製品の販売
 - 被服デザイン科…トートバッグなど縫工製品の販売
 - 食品デザイン科…チーズケーキや縫工製品の販売
 - 福祉デザイン科…カフェの運営、バスボムの販売
- ・授業公開や学科説明「あいトーク」
 - 地域に開かれた教育課程を実現する機会となっている
- ・地域の多様な団体による「ステージ発表」
 - 地域住民からの協力を得ることで、障害の有無にかかわらず、誰もが集い・交流できる機会になっている

配慮や工夫

○地域の多様な団体から協力を得たイベントになるように働きかけを行っている

地域の多様な団体が企画や運営段階から携わることにより、同校が推進する「地域と共に歩む教育活動」を実現する機会になっている。

また、生徒が地域住民と共にイベントを築き上げる経験を通して、生徒一人ひとりの知的好奇心や、よりよく生きたいという向上心を高め、学校外でも学び続ける意義や楽しさを経験する機会にもなっている。



ステージ発表の様子

特別支援学校地域連携・協働推進事業



Instagram



ホームページ

令和5年度
第2回

あいcircle

を開催します

2023.11.11(土) 10:00~12:30

会場：北海道札幌あいの里高等支援学校

販売・体験等 【第1体育館】 10:00~12:30

けさらん 小物、雑貨	スワンカフェ& ベーカリー札幌店 パン、菓子類	やすらぎの里CoCo 自然食品、野菜 パン、ドミド雑貨	NPO法人オペア ドーナツ、マトレーヌ クッキー、ラーメン	ファーム アグリコラ 平飼いたまご	とれた小屋 ふじい農場 新鮮野菜
POPCORN CAFÉ ジェルポップオン 駄菓子	ひかり工房 パン、大福	光ファクトリー 焼き菓子	Mr.croissant ミタケクワガ クロワッサン	ウェルネス スクエア札幌 スポーツクラブトレーナーに よるストレッチ、 運動指導	北海道医療大学 学生企画 体験コーナー
北海道教育大学 札幌校 学生企画 体験コーナー	札幌あいの里高等支援学校 PTA 縁日コーナー ミニ相談会 (~11:00)	札幌あいの里高等支援学校 生産 技術科 窯業製品 (12:00~)	札幌あいの里高等支援学校 被服 デザイン科 縫工製品 (11:30~)	札幌あいの里高等支援学校 福祉 サービス科 カフェ(12:00~) バスボム販売	札幌あいの里高等支援学校 食品 デザイン科 チーズケーキ、縫工製品 (12:00~)

授業公開等

【各実習室】

10:00~

学科説明「あいトーク」

【各実習室等】

1回目 11:00~2回目 11:30~

□ 各学科の1年生が説明します!!

- ★生産技術科 ~1階 生産技術科実習室
- ★環境・流通サポート科 ~3階 環境・流通サポート科実習室
- ★被服デザイン科 ~1階 被服デザイン科実習室
- ★食品デザイン科 ~1階 第1会議室
- ★福祉サービス科 ~1階 カフェエリア
- ★普通科 ~3階 総合教育実習室

主催：北海道札幌あいの里高等支援学校

後援：北海道教育大学札幌校、北海道医療大学

皆様の御来校を心よりお待ちしております！

♪ステージ発表♪

【第1体育館】

10:30~

- ♪ママさん吹奏楽団スノープリズム
- ♪あいの里コーラス
- ♪北海道教育大学札幌校アカペラサークル
- ★あいの里マジック同好会

【3階】



会場図

【1階】



第2体育館
公開研究会

第1体育館
販売、体験
ステージ

※上靴やスリッパ、靴袋を御持参ください

令和5年度
第2回

あいcircle

あいの里高等支援学校へようこそ！



日時 令和5年11月11日(土)
10:00 ~ 12:30

場所 北海道札幌あいの里高等支援学校
札幌市北区あいの里4条7丁目1番1号

学校関係者だけではなく、地域、企業や事業所の方など、
様々な人が一緒に活動・交流する場を目指しています。
たくさんの方々の参加をお待ちしています。



学校HPは
コチラ



インスタグラム
はじめました

@AINOSATOKUSHI_AIRCLE

製品販売、活動紹介、交流など
詳しい内容は、
札幌あいの里高等支援学校の
HPでお知らせします。

学校名 北海道真駒内養護学校

取組名

地域と共に進める取組・協働活動

趣旨

- ・児童生徒の社会参加や余暇活動の充実に向けて、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した地域とともにある学校づくりを推進している。
- ・学校運営協議会の議論を経て、児童生徒が地域を意識・理解し、地域貢献に資する学習活動や余暇活動の充実を図るため、保護者や地域住民が参画した授業以外の活動やイベントを企画・実施している。

取組内容

○4つの観点

学校運営協議会では、取組を進めるために、「学校行事・授業」、「情報の収集・受信」、「授業以外の活動・イベント」、「人材」の4つの観点を設定している。

○5つの取組

卒業後の余暇充実という観点も踏まえて、次の取組を実施している。

(1) フラワースマイル作戦

花壇整備、苗の移植、日常的な花の手入れや水やり等

(2) 防災に関わる取組

指定避難所の周知、町内会との取組（予定）、一日防災学校の実施

(3) 合同イベント・共同行事

レクリエーション、パラ・スポーツ、ゲーム、屋外での活動等

(4) 情報の発信

作品等の紹介、チラシやポスターの掲示、学校だよりの回覧等

(5) 人材

ゲスト・ティーチャーやボランティアによる授業や行事等の支援等

○今年度の取組「合同イベント・共同行事」

(1) ユニバーサルカフェ minnna との連携（8～9月）

・盆踊り行燈原画展の開催、中学部と高等部の作品展示

(2) ○・むすびフェスタへの協働・参加（10月28日）

・地域の福祉事業所と連携・協働し、札幌市南区藻岩下まちづくりセンターでの作品及び製品の展示

配慮や工夫

○卒業後を見据えた教育活動の推進

・学校教育の段階から、生涯学習への意欲を高め、余暇活動を充実させるため、地域の教育資源や人材を活用した取組を展開している。

○持続性のある取組に向けて

・持続的な取組を展開するため、学校運営協議会において、児童生徒・学校・地域それぞれのメリットを共有した上で、具体的な取組内容を検討している。



プランターへの移植
(フラワースマイル作戦)

北海道真駒内養護学校「地域と共に進める取組・協働活動」

地域と共に進める取組・協働活動（例・案）

第1～2回
学校運営協議会より

- 花の定期的な手入れ、生徒と地域住民との関わり（フラワースマイル作戦）
- 清掃活動（福祉会館等）
- 合同防災研修、合同避難訓練

【学校行事・授業】


- 体育的行事（運動会、記録会、体育大会）
- 文化的行事（学習発表会、文化祭、高等部祭）
- 交流及び共同学習
- 街へチャレンジ（校外学習）
- フラワースマイル作戦（高）
- 地域施設（福祉会館等）の清掃活動（高）
- みどりプロジェクト（高）
- 生活体験実習（高）
- 主権者教育に関する取組（役員選挙）
- 避難訓練、防災教育に関する取組
- 精進川のこいのぼり飾り付け
- 澄川婦人会の乾燥野菜作り
- ポニーショップでの製作体験

【情報の発信・受信】

- △作品展示
- △学校だより「射雲」の回覧
- △学校ホームページの活用
- △ちらしやポスターの掲示
- △だよりやリーフレット等の収受
- △メール配信システムの活用
- △フォームの活用（学校評価、アンケート…）

第1～2回
学校運営協議会より

- △学校だよりの回覧
- △各取組の情報発信



第1～2回
学校運営協議会より

- 福祉事業所との合同イベント開催
- パラ・スポーツ
- お祭りなどの共同開催
- 冬期間の活動場所の確保

【授業以外の活動・イベント】

- PTA活動
 - ・校内ガラス拭き等清掃活動
 - ・そうさんの収集と寄贈
 - ・幸せの黄色いレシートキャンペーン
 - ・防災備蓄品試食会
- おやじの会
 - ・夏祭り
 - ・雪山づくり
- 地域の行事やイベント
 - ・共同イベント、〇〇教室…
- 施設の活用、活動場所の提供
 - ・体育館、グラウンド、特別教室…
- その他
 - ・交通安全、防災、防犯、感染症対策…

【人材】

- ◇ゲスト・ティーチャー（地域の人材）
 - ・音楽（歌唱、楽器、舞踊…）
 - ・体育（運動、競技、パラスポーツ…）
 - ・図工・美術（製作活動、鑑賞…）
 - ・社会、理科、総合、作業学習、進路学習…
- ◇ボランティア
 - ・行事の補助、写真撮影…
- ◇職員の募集
 - ・非常勤寄宿舎指導員、学習指導員、教員業務支援員、医療的ケア看護職員、スクールバス添乗員…
- ◇地域への人材派遣
 - ・研修講師…

第1～2回
学校運営協議会より

- ◇ゲストティーチャーの募集

【取組例1】フラワースマイル作戦

課題・きっかけ	卒業後の余暇活動の拡大、地域との関わりの広がり…												
活動内容	花壇整備、苗の移植、日常的な花の手入れや水やり、地域へのプランターの設置…												
期待される効果	児童生徒にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と共に植物を育てる経験の拡大 ・自然や環境への理解の向上 ・地域への意識や関心の高まり ・卒業後の余暇活動の拡大、生涯学習 											
	学校にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動の理解、啓発 											
	地域にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒との交流 ・地域の活性化 											
役割・活動の分担	学校	教育活動（花壇整備、花の手入れ、プランター設置）											
	地域	苗の準備や寄贈、設置場所の提供											
スケジュール例	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
		苗の寄贈	移植整備	手入れ	プランター設置		片付け		反省 次年度に向けて				
次のステップ	小・中学部の児童生徒との取組、参加人数の広がり、野菜の栽培…												

【取組例2】防災に関わる取組													
課題・きっかけ	災害時の実際的な訓練、指定避難所（地域）としての機能…												
活動内容	指定避難所（地域）の周知、町内会との合同研修、町内会との合同避難訓練…												
期待される効果	児童生徒にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の向上 ・避難行動の理解と習得 ・地域への意識や関心の高まり 											
	学校にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所としての理解啓発 ・地域での役割の確認と発揮 											
	地域にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の向上 ・児童生徒、及び職員との交流 											
役割・活動の分担	学校	実施計画の立案、打合せ、研修及び訓練の実施、反省											
	地域	打合せ、研修及び訓練の実施、反省											
スケジュール例	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
		計画立案	打合せ			合同研修	合同訓練		反省				
次のステップ	事故防止や防犯に関わる取組、他の関係機関との連携拡大…												

【取組例3】合同イベント・共同行事													
課題・きっかけ	卒業後の余暇活動の拡大、地域との関わりの広がり…												
活動内容	レクリエーション、パラ・スポーツ、ゲーム、屋外での活動…												
期待される効果	児童生徒にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と共に活動する経験の拡大 ・地域への意識や関心の高まり ・卒業後の余暇活動の拡大、生涯学習 											
	学校にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動の理解、啓発 ・地域や関係機関との連携の拡大 											
	地域にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や施設職員との交流 ・地域や関係施設の活性化 											
役割・活動の分担	学校	計画の立案、合同打合せ、イベントや行事实施、反省											
	地域・関係施設	計画の立案、合同打合せ、イベントや行事实施、反省											
スケジュール例	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
		計画立案	打合せ				イベント・行事				反省		
次のステップ	イベントや行事の活性化、地域や関係機関との連携拡大、生徒の卒業後の連携強化…												

【取組例4】情報の発信

課題・きっかけ	児童生徒の取組や成果の発信、学校評価（学校だより、学校ホームページの充実）…												
活動内容	作品等の紹介、ちらしやポスターの掲示、学校だよりの回覧、学校ホームページの活用、地域のたよりやリーフレット等の配布…												
期待される効果	児童生徒にとって	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感や学習意欲の向上 地域への意識や関心の高まり 											
	学校にとって	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動の理解、啓発 											
	地域にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域に対する理解の向上 情報の共有 											
役割・活動の分担	学校	展示及び掲示場所の調整や依頼、たより等の配布及び回覧依頼、地域のたよりやリーフレット等の收受と配布											
	地域	たより等の配布依頼、学校だより等の配布及び回覧、作品等の展示及び地域への紹介											
スケジュール例	4月 調整	5月 計画 周知	6月	7月 学校だより 地域版 配布	8月	9月 作品 展示	10月 作品 展示	11月	12月 学校だより 地域版 配布	1月	2月	3月 学校だより 地域版 配布	備考
次のステップ	他校や地域との作品交流、図工・美術等の充実（ゲストT、体験）…												

【取組例5】人材

課題・きっかけ	ゲスト・ティーチャー、ボランティア、人材派遣、職員の募集、人材発掘…												
活動内容	ゲスト・ティーチャーやボランティアによる授業や行事等への支援、職員の募集（非常勤職員、スクールバス添乗員等）、地域や関係機関等への人材派遣（研修の講師）…												
期待される効果	児童生徒にとって	<ul style="list-style-type: none"> 人との関わる経験の拡大 地域への意識や関心の高まり 卒業後の余暇活動の拡大 											
	学校にとって	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の充実 人材の確保 											
	地域にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の活躍の場の拡大 地域の学びの場の拡大 											
役割・活動の分担	学校	人材の募集（学校だよりやHP）、人材派遣、事例の報告											
	地域	派遣要請、応募、授業等への支援											
スケジュール例	4月	5月	6月	7月	8月	9月 募集・案内・依頼	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
次のステップ	他の取組との融合…												

学校名

北海道教育大学札幌校

取組名

キンダーぷらつつ

趣旨

キンダーぷらつつ (Kinder Platz)はドイツ語で「子どもの広場」という意味で、障害の有無に関わらず、児童・生徒が楽しみながら参加できる余暇支援の取組である。参加者の特性や学習ニーズを捉えた運動プログラムとしたり、学生ボランティアが参加者にこまめにコミュニケーションをとることで、学校外の学びへの意欲を高め、学校卒業後の余暇活動やスポーツへの参加に対するハードルを下げる機会になっている。

取組内容

○キンダーぷらつつ

- ・日時 令和5年4月～令和6年3月（月に一回、土曜日に開催）
- ・会場 北海道教育大学札幌校
- ・対象 小学生・中学生・高校生
- ・内容 参加者みんなが楽しめる運動遊びなど
（クリスマス会など、季節のイベントも実施）

※小学生や中学生を中心とした余暇活動充実の場になっているだけでなく、学校外で取り組むことができる学びの情報を共有したり、保護者の子育ての悩みを交流する機会になるなど、子育て支援の機会にもなっている。

○新企画 キンダーぷらつつ×hue Tech Labコラボ企画

- ・日時 令和5年4月、6月、10月、12月
- ・内容 1回目 レーザー加工機でキーホルダーをつくろう！
2回目 ウィンドベルをつくろう！！
3回目 モデルロケットを打ち上げよう！
4回目 指人形をつくろう！

※キンダーぷらつつと、同校の技術教育学研究室 (hue Tech Lab) が連携し、特別な支援が必要な児童・生徒のためのものづくり教育の場を提供し、ものづくりを通じた情操教育や資質能力の育成に取り組むとともに、特別支援学校等でも活用できる教材の開発も進める取組である。

配慮や工夫

- ・障害の有無に関わらず、参加者や運営者が自然な流れの中で交流が生まれるように、プログラムを実施している。
- ・子どもたちの創造力と創造力を引き出すため、安全面への配慮を行いながらも、自由な活動を保障するよう心掛けている。
- ・参加へのハードルを下げるため、家族で参加できる活動内容も取り入れている。



トランポリンやスナックライン

キンダーぱらっつ×hue Tech Labコラボ企画

第1回「かんたん！レーザー加工機でキーホルダーを作ろう！」

キンダーぱらっつ 北海道教育大学技術教育研究室(hue Tech Lab)コラボ企画

hue 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

レーザー加工機でキーホルダーを作ろう！

かんたん！！

自由に絵を描いて

コンピュータに取り込んで

レーザー加工機で加工

キーホルダーの完成！

所要時間 30分～45分
※コーティングが乾いてからのお楽しみとなります。
完成後30分程度お待ちいただきます。

開催予定 2023年4月22日
10:00～14:00 (最終受付 13:30)

みなさんの参加をお待ちしています！
技術教育研究室・機械金属加工実験実習室

北海道教育大学札幌校
技術教育研究室
hue Tech Lab

<https://sites.google.com/s/hokkyodai.ac.jp/hue-tech-edu-lab/>

第2弾「～風でゆらゆら～ウィンドベルを作ろう！！」

キンダーぱらっつ × hue Tech Lab コラボ企画第2弾

かせ
～風でゆらゆら～

ウィンドベルを作ろう！！

夏にピッタリ！
玄関先にぶら下げて爽やかな風と音色を楽しみましょう！

長さのちがうパイプを組み合わせて
色々な音を楽しもう！

レーザーカッターで
好きな形にカットしよう！

開催予定 2023年6月17日(土)
※先着10名限定！
大変申し訳ございません。
材料が無くなり次第終了させていただきますので
ご了承下さい。

みなさんの参加
お待ちしております！

第3弾「どこまで飛ぶかな!? モデルロケットを打ち上げよう！」

キンダーがらっつ × hue Tech Lab コラボ企画第3弾

どこまで飛ぶかな!?

モデルロケットを打ち上げよう!

火薬で飛ぶ本格的なロケットだよ!
煙を噴きながら飛ぶ姿は迫力満点!
みんな参加してね!

モデルロケットが飛ぶ様子を
Youtubeでご覧頂けます。



開催予定 2023年10月14日(土)

※各回4家族限定!

★1回目 10:30 集合(受付10:00 先着順)
★2回目 13:00 集合(受付12:30 先着順)
所要時間 45分程度
集合場所: 機械金属加工実験実習室

※ロケットの発射のみを体験していただきます。
(製作は行いません)
※雨天・強風時には中止とさせていただきます。
※安全面から保護者同伴をお願い致します。

たくさんの方々に参加して頂きたいので、家族単位で参加してください(兄弟が何人いても1回のみ参加です)

第4弾「カワイイ! 楽しい! 指人形をつくろう！」

キンダーがらっつ × hue Tech Lab コラボ企画第4弾

カワイイ! 楽しい!

指人形をつくろう!

作りたい形を絵に描いて
レーザーで切って
ボンドで接着して完成!

みんな参加してね!

開催予定 2023年12月16日(土)
所要時間30~40分程度
10:00~12:00
場所: 機械金属加工実験実習室



学校名 北海道文教大学

取組名

チャレンジド教室

取組紹介

特別な支援を必要とする子どもたちを対象に、軽スポーツやイベント活動などの楽しい体験プログラムを実施し、豊かな成長を支援する機会になっている。企画や運営には、人間科学部こども発達学科の学生ボランティアが主体的に行い、参加する子どもや保護者の学習ニーズに沿った内容としている。

参加する子どもたちの中には、特別支援学校卒業後にも学びの機会に参加する方もいるなど、学校教育から生涯学習への接続に好影響を及ぼしている。

具体的内容

○日時・会場・対象

- ・日時 5～7月、10～1月の毎週金曜日 16：30～17：30
- ・会場 北海道文教大学
- ・対象 恵庭市内や近郊に在住の特別な支援を要する幼児・児童・生徒、きょうだい児も含めた対象設定となっていることが特徴。

○活動内容（下記は、令和4年度）

- ・季節感のある創作活動
ペットボトル風鈴づくり、クリスマスリースづくり 等
- ・ルールを守りながら、仲間と楽しむ運動遊び
カプラで遊ぼう、忍者修行にチャレンジ 等
- ・学びの成果を生かすイベント
夏祭り、クリスマス会、発表会 等

※創作系と運動系をバランス良く、企画・実施できるよう配慮している

○保護者のおしゃべり会の開催

児童生徒が活動している時間に、参加している保護者が、他の保護者や大学の教員等と、子育ての中で感じている悩みや不安を交流している。学校以外で行われている講座やイベントの情報を得る機会にもなっている。

○保護者からの感想

- ・学生や友達と触れ合うことで、学びへの意欲を高めることができている。地域のイベントや事業に対しても、積極的に参加するようになってきた。
- ・保護者のおしゃべり会は、不足しがちな学校卒業後の学びの情報を得られる貴重な機会になっているので、このような機会を各地に拡げて欲しい。

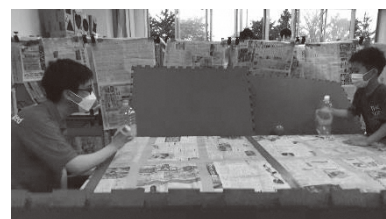
配慮や工夫

○指導内容や留意事項をスタッフ間で共有

- ・実施する回ごとに、活動計画書を作成し、活動のねらい・流れ、指導体制・配慮事項を運営者間で情報共有をしている。

○参加家庭に寄り添った運営

- ・活動の様子をこまめに報告したり、きょうだいや保護者も参加できるようにするなど、家庭に寄り添った運営を心掛けている。



手づくりおもちゃで交流

北海道文教大学 こども発達学科

「チャレンジド教室」へようこそ！

*活動場所：北海道文教大学 7号館 保育演習室2 他

*活動期間：5月～7月、10月～1月（不定期）

*活動日（基本）：金曜日 16:30～17:30

*活動内容

恵庭市にお住まいのお子さんを中心に、障がいのある幼児・児童・生徒を対象として、学生たちが企画した様々な活動を子どもたちと一緒に楽しめる場となるよう活動しています。夏まつりやクリスマス会のイベントも計画しています。



チャレンジド教室では、お子さんたちが活動している時間に、参加している保護者の方々が別教室で「保護者のおしゃべり会」を行っています。こちらは、こども発達学科の教員が中心となり、様々な話題でお話したり、企画を楽しんだりしています。

チャレンジド教室の活動に、興味・関心のある方は、参観からでも構いませんので、是非一度お出でください。学生たちが、子どもたちと一緒に楽しく参加できるよう、毎回いろいろな活動を企画して準備してお待ちしています。

連絡先：こども発達学科 山下研究室 0123-29-8042

北海道文教大学こども発達学科

きょうしつ

チャレンジド教室

こども発達学科の学生といっしょに活動しましょう！
みなさんにお会いできるのを楽しみにお待ちしております！！



- 活動場所:北海道文教大学7号館1階 保育演習室2
- 活動日:金曜日16:30~17:30

取組 6

障害者の学びを支援する人材の育成に資する研修の実施

本取組の着実な推進のためには、地方公共団体の職員をはじめ、多くの関係者の理解が必要なことから、地域連携コンソーシアム会議の構成団体からも協力を得て、オンライン形式で行う入門講座、各地域を巡回して行うキャラバン隊、新たな取組を開始する団体へのスタートアップ支援学習会を実施した。

1 障害者の学びの支援入門講座

○趣 旨

障害者の生涯学習に関する取組の実態把握や、障害についての理解促進のため、有識者による全道各地での講演、先行的な実践事例の発表及び意見交流等を通して、本事業における社会教育をはじめとした関係者の今後の取組を推進する上での機運醸成や、学びを支援する人材の育成を図る。

○内 容

講義、実践紹介、演習

2 障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊

○趣 旨

有識者による講義や実践紹介等を通して、地域で障害者の学びを支える学習支援者やボランティア等の、学びに関する基本的な視点や考え方についての理解を深める。

○内 容

講義、実践紹介、演習、体験活動



3 スタートアップ支援学習会

○趣 旨

学校卒業後の障害者の学びの機会拡充に向けた取組の開始や拡充を検討する団体の職員が、必要な専門的知識や技術について学ぶ学習会や取組を実施する上での悩みを解決する相談機会を設けることで、団体等のスタートアップを支援する。

○内 容

説明、講義、相談・助言



4 社会教育主事講習において、「特別な支援を要する人への学習支援（生涯学習支援論）」の講座科目の設定を依頼

障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業「障害者の学びの支援入門講座」事業報告書

I 事業の概要

1 事業名

障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業「障害者の学びの支援入門講座」

2 開催日時・プログラム

全5回シリーズ

1	オンデマンド受講	講 義「障害者の生涯学習の現代的な意義」 特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター 理事 宮崎隆志氏
		説 明「国や道の動向」「道教委による調査研究の結果を受けて」 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
2	10月19日(木) 15:00~17:00	講 義「持続的な学びと余暇活動充実の重要性」 北海道教育大学札幌校 教授 安井友康氏
		実践紹介「障害者の生涯学習の実際①」 いっしょにね！文化祭実行委員会 事務局長 杉澤洋輝氏 札幌ノースウィンド 代表 岩崎圭介氏
3	10月26日(木) 15:00~17:00	講 義「地域との連携によるウェルビーイングの実現」 父親ネットワーク北海道 事務局長 吉岡亜希子氏
		実践紹介「障害者の生涯学習の実際②」 北海道教育庁関係教育局社会教育指導班
4	11月2日(木) 15:00~17:00	講 義「ニーズを踏まえた事業実施に向けて」 北海道医療大学 教授 志水幸氏
		実践紹介「当事者が参画する取組の実施に当たって」 医療法人稲生会学びのディレクター 松井翔惟氏
5	11月9日(木) 15:00~17:00	講義・演習「障害者の生涯学習支援のあり方について」 特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター 理事 宮崎隆志氏

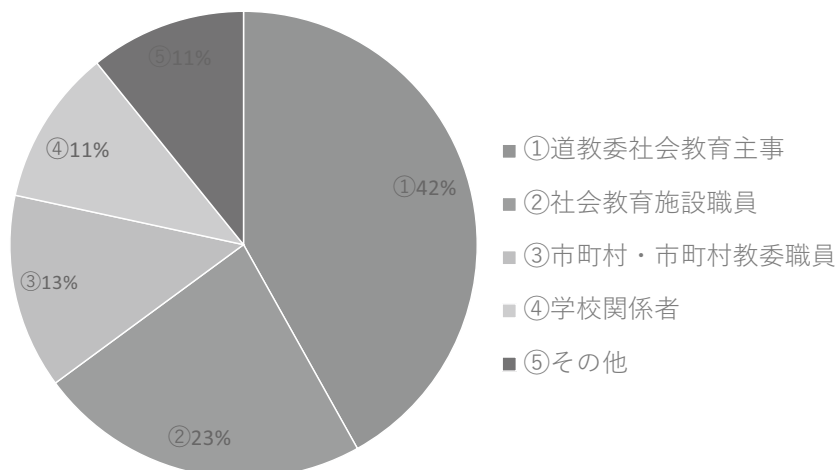
3 開催場所

オンライン (Web会議システムZoom) ※一部、オンデマンド配信あり

4 参加人数

74名 (接続端末数67)

5 参加者の内訳



II 講座の内容

(1) 講義「障害者の生涯学習の現代的な意義」

①講師：特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター

理事 宮崎隆志氏

②内容：ア、社会教育・生涯学習の役割 イ、障害者の生涯学習に取り組む必要性
ウ、障害者の生涯学習の課題

障害者の生涯学習に取り組むに当たって、障害者と共に学ぶ社会を創ることができなかった社会教育・生涯学習振興の在り方を問い直し、個人が互いの尊厳を認めながら対話と協働を繰り返す共生社会を創る活動の重要性について強調されました。

(2) 説明「国や道の動向」「道教委による調査研究の結果を受けて」

①説明：北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

②内容：ア、背景と現状 イ、北海道の状況 ウ、市町村（地域）に期待される取組 等

道内各地の障害者の学校卒業後の学びの現状や支援を行う上での課題、道教委が開催する地域連携コンソーシアム会議の議論をもとにした、道教委の取組などについて説明を行いました。

(3) 講義「持続的な学びと余暇活動充実の重要性」

①講師：北海道教育大学札幌校 教授 安井友康氏

②内容：ア、障害者が余暇活動に参加する意味 イ、関連の権利や法律の内容
ウ、ノーマライゼーションの実現と障害者の生活の国際動向 等

障害者が余暇活動に取り組むことの重要性について、障害者の権利条約の内容を紐解きながら、考えました。また、先進的な取組を行うドイツの事例が紹介され、障害者の学びの環境を地域に作る重要性について理解を深めました。

(4) 実践紹介「障害者の生涯学習の実際①」

①実践紹介者：いっしょにね！文化祭実行委員会 事務局長 杉澤洋輝氏

②内容：ア、地域メディアと発信 イ、「いっしょに、ね」の精神

ウ、いっしょにね！文化祭への歩み エ、ますます広がる「いっしょに、ね」

障害の有無にかかわらず、誰もが参加できる、「いっしょにね！文化祭」の理念や経緯、具体的な内容等の紹介がありました。出された課題に対して、どのように解決していったか説明され、障害者と健常者が相互に理解することの重要性が強調されました。

(5) 実践紹介「障害者の生涯学習の実際①」

①実践紹介者：札幌ノースウィンド 代表 岩崎圭介氏

②内容：ア、ケガをする前の自分と今の自分 イ、環境と心境の変化

ウ、20年目で掴んだ感覚 エ、20年振りに再会した自分に教わったこと

障害を負ってからの心境に大きな変化があったことや、車いすバスケットボールとの出会いが日々の生活に潤いを生んでいることが紹介されました。障害当事者の実体験を通して、障害者の学校卒業後の学びの重要性について理解を深めました。

(6) 講義「地域との連携によるウェルビーイングの実現」

- ①講師：父親ネットワーク北海道 事務局長 吉岡 亜希子 氏
②内容：ア、地域と連携した取組の意義（国立市公民館・むくどりホームを事例に）
イ、北海道文教大「チャレンジド教室」の取組

道内外の事例をもとに、障害者の学びを地域に生み出し、持続していくためには、地域との連携が重要であることが説明されました。また、地域の歴史をよく知り、学び合いを作ることで、社会教育を学んだ支援者の存在が重要であることが強調されました。

(7) 実践紹介「障害者の生涯学習の実際②」

- ①実践紹介者：北海道教育庁関係教育局社会教育指導班
②内容：ア、それぞれの地域で行われている実践
（北斗市、新ひだか町、北広島市、名寄市、網走市、別海町）

全道各地で行われている、障害の有無に関わらず参加できる講座の具体的な内容、連携体制、合理的配慮等が紹介されました。多くの地域で、福祉や医療の団体と教育委員会等が連携・協働して、地域の教育資源を活用した取組が行われていることが分かりました。

(8) 講義「ニーズを踏まえた事業実施に向けて」

- ①講師：北海道医療大学 教授 志水 幸 氏
②内容：ア、調査研究の内容を分析して イ、本学で行う地域連携の取組

北海道医療大学が取り組んだ、「高等教育機関における『障がい者の生涯学習』提供モデルの開発」という調査研究の結果を受けて、障害当事者と教員それぞれが捉える学習ニーズの違いや、大学が地域と連携して行う事業の成果や課題について紹介されました。

(9) 実践紹介「当事者が参画する取組の実施に当たって」

- ①実践紹介者：医療法人稲生会 学びのディレクター 松井 翔 惟 氏
②内容：ア、社会教育実践としてのみらいつくり大学校
イ、みらいつくり大学校の実践からわかる課題と展望

障害者の学校卒業後の学びの機会を充実するために行う、「みらいつくり大学校」について、取組の経緯・学習内容・実施上の留意事項などが紹介されました。オンラインを活用し、当事者の学習ニーズを尊重した取組にすることの重要性が強調されました。

(10) 講義・演習「障害者の生涯学習支援のあり方について」

- ①講師：特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター
理事 宮崎 隆志 氏
②内容：ア、入門講座のふりかえり イ、グループワーク ウ、講評（今後に向けて）

障害者の学びの支援に関わるポイント（視点）を、「個別化」「アクセシビリティ」「評価」などのキーワード化した上で、他の参加者と意見交流を行いました。
参加者は、全5回の講座で学んだ内容を整理することで、今後新たに行う講座やイベントに、どのような工夫や配慮が必要となるのか考える機会となりました。

Ⅲ アンケート結果

- 1 本講座（全5回）により、障害者の学びを支える学習支援者やボランティア等の、学びに関する基本的な視点や考え方についての理解を深めることができましたか。



■①とてもそう思う ■②そう思う ■③そう思わない ■④全くそう思わない

- ・障害者の学びについての歴史的な経緯や、国・道の目指す方向性なども確認することができた。また、本町で計画中の障害者の生涯学習に関する事業につながる内容で、とても参考になった。
- ・「基本的な視点」とはいえ、立場や環境の違いなどによって、様々な視点があることに改めて気付かされた。
- ・各受講者の現在置かれている立場によって、必要な支援に違いがあることに気付くことができた。
- ・事例が多くてとても分かりやすかった。成人してからの余暇活動の場が沢山あることが分かり、勉強になった。成人後に向けて、どのようなことに取り組んでいくと良いのかなどの手立てをもっと知りたかった。

- 2 本講座は、各地域における実践や支援方法の工夫を学ぶ機会となりましたか。



■①とてもそう思う ■②そう思う ■③そう思わない ■④全くそう思わない

- ・様々な立場からの事例紹介があり、事業を企画する上で、障害者の生涯学習事業全体について、目的から具体的な工夫まで、多くのヒントがあったと思う。
- ・それぞれの講義内容や話が他とも関連性があり、そこから見える共通項も見えました。地域の特色を活かすことも大事ですが、その地域に住む方との対話を通じて、地域や住民の性質を勘案した取組が関わる人にとって大切なことだと感じた。
- ・講義の中で色々な取組を知ることができたのは大変勉強になった。今後教員として学校という組織の中で、どんなことができるのか考えていきたい。
- ・もう少し具体的に最初の一步が分かると良い。

- 3 本講座のプログラムの内容、構成はいかがでしたか。



■①大変満足 ■②満足 ■③やや不満 ■④大いに不満

- ・第1回のオンデマンド講座から第5回のグループワークまで、講義と事例紹介のバランスが良かったと思う。
- ・講義、実践紹介、振り返りや意見交流など、様々な形態で構成されていた。
- ・講義だけではなく演習でのグループ討議があり、また実践や当事者の方の話など充実した内容だった。
- ・概念的な説明、社会の動き、道内各地の取組などバランス良く配置されていて良かった。

4 本講座の講義は参考になりましたか。

①71%

②25%

③4%

■①大変参考になった ■②参考になった ■③あまり参考にならなかった ■④参考にならなかった

- ・障害者の学びについて、理念や背景、考え方など様々な方から様々な角度で講話をいただくことができた。
- ・自身の業務や日常生活でも、講義で得た知識が役に立つと感じた。
- ・志水先生が取り上げた調査については、この調査が全てではないと思うが、当事者の感じているところを知ることができて参考になった。
- ・宮崎先生の最後のまとめでは、参加者の意見や実践に対し、具体的に突っ込んだ話しをされていて大変勉強になった。1回目は概念的な説明だけではなく、最終回のような社会的な視点、学問的な視点、実践的な視点からの話しも盛り込んでもらえたら、さらに良かったと感じた。

5 本講座の実践紹介は参考になりましたか。

①64%

②36%

■①大変参考になった ■②参考になった ■③あまり参考にならなかった ■④参考にならなかった

- ・特にドイツの事例については参考になった。
- ・車いすバスケの岩崎氏の話をもっと聞きたいと思った。その他の発表者の内容も大変学びとなった。小さなことからできることをしていくことが大事だと思った。
- ・道内、各地域における障害者を対象にした取組や、障害のあるなしに関わらず参加できる活動等、参考になる事例を紹介していただけたのが良かった。
- ・講師の方々から紹介いただいた事例は、比較的、都会のほうの事例が多かった気がする。私は田舎のほうに住んでいるため、小規模な市町村の事例発表にもう少し時間をさいて、立ち上げの苦労などについて細かく話していただけたら、大変参考になったかもしれない。

6 本講座の演習は充実していましたか。

①52%

②48%

■①とても充実していた ■②充実していた ■③あまり充実していなかった ■④充実していなかった

- ・とても良い学習の機会でした。もっと回数が多くても嬉しかった。今回は、好ましい事例、成功した事例が中心でしたが、好ましくない例、失敗例なども出しながら、どうするとより良くなるのか考えるような学習があると、より今後に繋がるように感じた。
- ・少人数で話を深く聞くことができたことはとても良かった。
- ・障害者の視点に基づく意見は、日常業務では気が付かないことも多く、とても貴重だと感じた。
- ・これまでの講義を踏まえてのグループでの話し合い、とても参考になりました。もう少し時間があると良かった。

- 7 「障害者の生涯学習」についてさらに学びたいこと・知りたいこと等があればお聞かせください。
(自由記述)
- ・実際に障害のある方に、当事者としての話をもっと聞きたい。自分の思いをちゃんと伝えられない知的障害の方などから声を聞きたい。
 - ・今回は教育庁が主催されたが、保健福祉部と連携していただけると、福祉関係者の参加も増え、各自治体において福祉と教育の連携が深まるように感じた。
 - ・学校、団体、関係機関等、障害者の学びの充実・拡大につなげる（つなげた）、より多くの実践について知りたい。
 - ・事業を行う上で、障害者、特に知的障害や精神障害の人との接し方。
 - ・学校が連携して行っている実践例などあれば知りたい。
 - ・今後、継続的に支援者やボランティアが連携することができたら理想的だと思う。事業づくりに取り組む人たち、障害者を送り出す人たちで情報交換する機会、学び合う機会があれば良い。
- 8 その他、感想やお気づきの点があればお聞かせください。(自由記述)
- ・演習に参加して、参加者の属性に偏りがあるように感じました。関係者は仕事の一部として参加できますが、そうでない人は参加できない時間帯ではあると思います。意識をもっている人だけでなくもっと多様な人たちがこの話を聞けたら良いと思った。
 - ・共生社会の実現に向けて、関係各所が動いていると思うが、そのような動きをイベントや広報によって、さらに発信を強化していただくことを期待する。
 - ・ネパールの方や行政の方とお話をする機会はないので、演習でお話することができたことはとても勉強になり、大変良かったと感じた。特に普段関わっている生徒や卒業生のイメージが強く、自分の視点や考え方が狭くなっていたと感じた。
 - ・良い活動例や大学教授の研究結果、理想の姿を知ること大事だが、結局、実際の現場感覚で考えたときに、どことどのようにつながって進めていくのかなど、もっと市町村のためになる内容も必要だと感じた。
 - ・今後、道内の障害者向けの生涯教育が前進することを望む。必要なのは、障害者でもできる事業ではなく、障害者が取り組みたい事業である。とにかく動き始めてほしい。健常者以上に障害者は学びを必要としている。また、障害者は健常者と違い、自分から学ぶ手段を獲得するのが苦手なので、社会教育に携わる皆さんには障害者の学びの場を作ってほしい。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」
(道教委事業名：障害者の障害学習支援体制構築モデル事業)

「障害者の学びの支援入門講座」実施要項

1 目 的

障害者の学びを支える学習支援者、共に学ぶボランティア等の育成に向けて、有識者による講義や実践紹介等を通して、市町村や民間団体職員等の、障害者の学びに関する基本的な視点や考え方についての理解促進を図る。

2 主 催

北海道教育委員会

3 期 日

令和5年10月から11月までの期間で全5回

※事業成果を高めるため、5回全てに参加（視聴）することを基本とする。

4 開催方法

オンライン形式（Web会議システム Zoom を使用）での開催

※第1回目をオンデマンド配信とし、参加者へ事前の視聴を促す。

5 参加対象

どなたでも（市町村職員、社会教育施設職員、学校関係者、医療や福祉の関係職員、民間企業及び団体職員、障害当事者の家族、障害者の生涯学習に興味や関心のある方等）

6 申込方法

北海道電子自治体共同システム（電子申請システム）の簡易申請システムによる Web からの直接申込

7 定 員

50名（申込人数が定員を超えた場合は、抽選を行う）

8 そ の 他

参加にあたって、インターネットに接続できる環境、電子機器（パソコン、タブレット、スマートフォン等）や Web 会議システム Zoom の利用準備を周知するほか、接続に要する回線通信料は参加者の負担とする。

障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊 実施報告書

1 実施要項

(1) 趣 旨

全道における障害者の生涯学習に関する取組の実態把握や、障害についての理解促進のため、有識者による全道各地での講演、先行的な実践事例の発表及び意見交流等を通して、本事業における社会教育をはじめとした関係者の今後の取組を推進する上での機運醸成や、学びを支援する人材の育成を図る。

(2) 実施管内

石狩・檜山・日高・十勝・上川の5管内

(令和6年度と令和7年度までの3か年で、14管内全てで実施する予定)

(3) 実施時期

7月～1月

2 実施状況

(1) 石狩開催

・日 時 7月21日(金) 10:00～12:00

・会 場 恵庭市民会館

・参加者 教育委員会担当職員、社会教育委員など 22名

・内 容 講 義「社会的包摂の実現に向けて」

北海道教育庁石狩教育局教育支援課社会教育指導班

講 義「障害者の生涯学習の重要性」

北海道医療大学 講師 近藤 尚也 氏

(2) 檜山開催

・日 時 10月12日(木) 13:00～16:00

・会 場 今金町総合体育館あいきゅーぶ

・参加者 教育委員会担当職員 9名

・内 容 行政説明「道内の現状と道教委の取組」

北海道教育庁生涯学習推進局社

会教育課

講 義「障害者の生涯学習の推進に向けて」

医療法人稲生会 学びのディレクター 松井 翔惟 氏

体験活動「ボッチャの体験」

北海道教育庁檜山教育局教育支援課社会教育指導班



(3) 日高開催

・日 時 11月25日(土) 10:30～15:10

・会 場 新ひだか町静内体育館

・参加者 中学校及び高等学校に在籍する生徒、教育委員会担当職員 35名

・内 容 体験実技「スポーツとSDGs～障がい者スポーツを知ろう」

講 義「障害者スポーツ(フライングディスク、ボッチャ)について」

NPO法人あ・りーさだ 代表理事 正木 英之 氏

(4) 十勝開催

- ・日 時 12月7日(木) 13:30~15:30
- ・会 場 芽室町中央公民館
- ・参加者 社会教育委員、教育委員会担当職員 62名
- ・内 容 行政説明「道内の現状と道教委の取組」
北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班
講 義「誰もが障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会
～持続的な学びと余暇活動充実の重要性～」
北海道教育大学札幌校 教授 安井 友康 氏
実践発表「障害者本人のニーズを踏まえた取組」
医療法人稲生会 学びのディレクター 松井 翔惟 氏

(5) 上川開催

- ・日 時 1月30日(火) 13:00~15:20
- ・会 場 上川合同庁舎
- ・参加者 社会教育主事、社会教育施設職員等 34名
- ・内 容 行政説明「道内の現状と道教委の取組」
北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
講 義「障害者の生涯学習の推進に向けて」
医療法人稲生会 学びのディレクター 松井 翔惟 氏

2 参加者からの感想

- ・障害者の学校卒業後における学びの現状及び課題、国や北海道の取組について、講義や実践紹介を通して理解を深めることができた。
- ・この取組を推進していくことが、共生社会の実現にとって重要であることが分かった。
- ・先進的な取組をされる実践者からの講義を聞いて、当事者ニーズを踏まえた企画立案や合理的配慮の実施方法について理解を深めることができた。
- ・ボッチャなど障害者スポーツの体験を初めて行ったが、とても楽しかったので、社会教育事業でも取り組んでみたい。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・有識者や実践者による講義や実践発表を通して、障害者の学校卒業後の学びの充実に向けて、社会教育主事や社会教育委員などが中心となって、地域全体が連携・協力しながら取組を進める意義について理解を深めることができた。
- ・社会教育行政職員や社会教育委員など、多くの方が参加して、意見を交わすことにより、障害者の生涯学習に対する機運を醸成することができた。

(2) 課題

- ・取組の輪を拡げていくためにも、社会教育に携わる人材だけでなく、当事者や民間団体(文化団体、社会福祉団体、スポーツ団体)などからの参加を促すことが必要である。
- ・本取組を通して醸成することのできた機運を、実際に事業の実施に結び付けるため、引き続き市町村教育委員会等への支援が必要である。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」
(道教委事業名：障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業)

「障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊」実施要項

1 目 的

全道における障害者の生涯学習に関する取組の実態把握や、障害についての理解促進のため、有識者による全道各地での講演、先行的な実践事例の発表及び意見交流等を通して、本事業における社会教育をはじめとした関係者の今後の取組を推進する上での機運醸成や、学びを支援する人材の育成を図る。

2 主 催

北海道教育委員会

3 期 日

社会教育課と関係教育局で調整のうえで、設定(7月～1月の間での実施とする)

4 対 象

市町村、市町村教育委員会、学校、大学、社会教育施設、当事者や民間団体(文化団体、社会福祉団体、スポーツ団体)等

5 内 容

(例)

開 会	講 演 ※大学教授等の有識者	実践発表 ※医療法人や社会福祉 法人の職員等	意見交流	開 会
--------	-------------------	------------------------------	------	--------

※概ね2時間程度

6 留意事項

- (1) 講師選定については、社会教育課社会教育指導係と事前に打合せを行うこと。
なお、社会教育課で開催する地域連携コンソーシアム会議構成員等から人選を行うことを基本とするが、各地域の状況に応じて、それ以外の者を選定することも可能とする。
- (2) 会場の確保や管内市町村等への事業実施の周知、当日の運営は、実施会場のある市町村を所管する教育局が実施団体と協力して行うこと。

スタートアップ支援学習会 実施報告書

施設名	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川
-----	-----------------------

1 実施概要

- ・ 目的： 学校卒業後の障害者の学びの機会拡充に向けた取組の開始や拡充を検討する施設等の職員が、必要な専門的知識や技術について学び、取組の実施に必要な事項を理解する機会とする。
- ・ 日時： 令和5年11月16日(木) 13:00~15:30
- ・ 会場： 北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川 中研修室・体育館
- ・ 対象： ネイパル深川および近隣社会教育施設職員、市町村教育委員会職員、障害者の生涯学習支援に携わる方
- ・ 参加者： 8名

2 内容や様子

- ・ 空知教育局教育支援課の齊藤萌社会教育主事より北海道教育委員会が推進する「障害者の生涯学習」が目指すことや具体的な取組内容についての話を聞き、参加者は「障害者の生涯学習」をめぐる課題について確認、整理した。
- ・ HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS の齊藤雄大代表より、齊藤代表自身のアメリカ留学の経験の話を交え、アダプテッドスポーツの将来性・方向性について講義を受けた。講義後には車いすバスケットボールの体験を実施。初めに車いすの操作を教わり、操作に慣れたところで2チームに分かれ、実際に車いすバスケットボールのゲームを体験した。



3 参加者からの感想

- ・ 今後、社会教育の立場から率先して障害者の生涯学習の場や機会の提供をしていくことが大切だと強く感じた。
- ・ 事業を企画する際のヒントとなる気づきがたくさんあった。
- ・ 事業にどう繋げていくか、またアウトリーチなどでもできることをやってみたいと思った。
- ・ 「障害がある人もない人も一緒に活動できること」と考えた際に事業の内容について考える視野が広がった。

4 学習会の内容を生かした、その後の取組

- ・ 今後も、職員の研修を重ね、「障害者の生涯学習」を念頭においた事業を企画し、障害者の生涯学習の場や機会の提供をしていく。

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」
 (道教委事業名：障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業)

「スタートアップ支援学習会」実施要項準則

1 目 的

学校卒業後の障害者の学びの機会拡充に向けた取組の開始や拡充を検討する団体の職員が、必要な専門的知識や技術について学ぶ学習会や、取組を実施する上で悩みを解決する相談機会を設けることで、団体等のスタートアップを支援する。

2 主 催

北海道教育委員会

3 主 管

関係教育局

4 期 日

関係教育局で設定（原則、7月～12月の間での開催とする）

5 参加対象

障害者の生涯学習に係る事業等を実施（予定）する市町村や団体の職員等
 （市町村、市町村教育委員会、学校、大学、社会教育施設、当事者や民間団体等）

6 内 容

(例)

開 会	説 明 「道教委における障害者の 生涯学習の取組について」	講 義 「当事者ニーズを踏まえた 事業企画・運営について」	相談・助言 「事業を実施する際の 合理的配慮について」
	説明：各教育局教育支援課 社会教育指導班	講師：有識者や実践者	助言：有識者や実践者

※概ね1～2時間程度

7 提出書類

- (1) 別紙様式2「実施計画書」を、実施予定日の3週間前までに提出すること。
- (2) 別紙様式4「経費計画書」を、配当希望日の3週間前までに提出すること。
- (3) 別紙様式6「実施報告書」を、事業実施後、3週間以内に提出すること。

8 留意事項

- (1) 「多様な主体の連携による学習プログラム構築事業」実施にあたり、事前打合せの機会等に本学習会を開催し、関係者の障害者の生涯学習に対する共通理解を深めること。
- (2) 市町村教育委員会等での、障害者が参加可能な生涯学習事業実施の検討機会や、今後の実施へ向けた事前の研修機会としても、積極的に活用すること。
- (3) 講師選定においては、社会教育課社会教育指導係と事前に打合せを行うこと。
- (4) 会場の確保や遠隔会議の準備は、主管する教育局が関係団体等と協力して行うこと。

令和5年度社会教育主事講習 プログラム	生涯学習支援論	時間	30 時間	単位	2	形態	講義・演習 事例研究
------------------------	---------	----	-------	----	---	----	---------------

【科目概要】

住民の自立と地域社会への参画意欲を喚起するため、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法の理解、学習プログラムの設計、プレゼンテーションの基礎、参加型学習の実際とファシリテーション技法等の事項について、講義や演習を通して学びを深める。

道外の大学の研究者や北海道で実践的な学びを提供している民間団体、国立教育施設経験者など多才な講師により、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【ねらい】

- ①発達特性等を踏まえた学習支援に関する理論や学習支援の方法を理解する。
- ②学習者理解を深めるために、カウンセリングマインドについて体験的に学び、知識及び技術を習得する。
- ③参加型学習の意義や理論を理解し、参加型学習を運営するためのファシリテーションの知識及び技術を習得する。

	講座	時数	目標	担当講師
学習支援に関する教育理論	生涯発達から見た学習者の特性 成人期・高齢期の教育理論 【講義】	3	乳幼児期、児童期、思春期、青年期等、生涯各期の発達段階と発達課題から導かれる学習課題について理解する。 成人・高齢者の発達特性について理解し、学習者に応じた学習内容や学習支援方法等があることを理解する。	聖学院大学 副学長 小池 茂子
	特別な支援を要する人への学習支援 【講義・事例研究】	3	特別な支援を要する人々の学習支援の方法について理解し、学習者に応じた学習内容や学習支援方法等があることを理解する。	神戸大学大学院 教授 津田 英二 医療法人稲生会みらいづくり 研究所学びのディレクター 松井 翔惟
効果的な学習支援方法	学習支援の原理 学習支援の方法・形態 【講義】	1.5	社会教育と学校教育との差異、生涯学習の実践の中で培われた学習支援など、生涯学習の各領域における学習支援の原理について理解する。 多様な学習者について、集合学習や集団学習の特性を踏まえながら、教育効果が高まるような環境作りを行うことの重要性を理解する。	國學院大学 准教授 青木 康太郎
	学習者理解とカウンセリングマインド 【講義】	3	カウンセリングマインドをもって学習者と接することの重要性を理解し、その基本的な考え方や手法を理解する。	北海道教育大学札幌校 准教授 益子 洋人
	I C Tを活用した学習支援 【講義】	1.5	I C Tを活用した学習支援の特性や方法を理解する。	関東学院大学国際文化学部 学部長(教授) 吉田 広毅
	プレゼンテーションの基礎 【講義】	3	様々な事業や施策の説明に必要なプレゼンテーションの方法や効果について理解するとともに、基礎的な技術を身に付ける。	一般社団法人プレゼンテーション検定協会 代表理事 脇谷 聖美
学習プログラムの編成	学習プログラムの設計・運営 プログラム編成の視点 【講義・演習】	4.5	住民の学習要求の把握や社会の課題に即した、教育計画とプログラムの構築について理解する。 学習プログラムの立案について、最適な学習内容や提示、順序立て等を多角的に考えることの重要性を理解する。	北海道教育厅社会教育課 主査 国枝 知
	学習支援方法としての参加型学習 【講義】	1.5	参加型学習の意義やねらい、参加型学習の種類とその特性を理解するとともに、参加型学習を運営するために必要なファシリテーション能力について理解する。	國學院大学 准教授 青木 康太郎
参加型学習の実際とファシリテーション技法	参加型学習の実際とファシリテーション技法 【講義・演習】	9	ファシリテーターの役割や手法を理解するとともに、学習者同士の関係づくり、集団づくりにも効果があることを理解する。 様々な参加型学習を通じた教育効果や手法について理解する。	GOOD ? WORKSHOP 代表 溝渕 清彦 特定非営利活動法人きたのわ 会員 本間 玲子

取組 7

障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築

障害者の生涯学習を一層推進する上で、障害者本人やその家族からは、学校卒業後の学びの情報を入手することが困難との指摘が寄せられている。道教委では、生涯学習推進センターの機能を有効活用する方策の検討に加えて、市町村教委に対する、情報の収集・提供の促進について働きかけを強化した。

1 北海道教育推進計画に、「障害者の生涯学習推進」に関する項目の位置付け

○令和5年3月に策定した「北海道教育推進計画」（令和5～9年度）において、「障がい者の学習機会に関する実態把握をしている市町村の割合」を推進指標に設定し、各地域における、障害者の生涯学習活動に関する情報把握を推進することとした。

2 障害者の生涯学習活動に関する情報の収集・把握に関する働きかけ

○北海道教育推進計画の指標達成や、今後の取組の基礎資料を得ることを目的に、「生涯学習推進体制の整備状況調査」を実施した。

- ・教育委員会の域内で住民が参加できる障害者の生涯学習活動に関する情報
収集・把握している 27.9% (50 市町村)
収集・把握していない 72.1% (129 市町村)
- ・上記調査項目で、「把握している」と回答した場合の内容（複数回答可）

教育委員会の主催事業	15.1% (27 市町村)
首長部局の主催事業	14.0% (25 市町村)
教育委員会が後援・関与する事業	10.6% (19 市町村)
国が行う事業	2.2% (4 市町村)
都道府県が行う事業	7.3% (13 市町村)
特別支援学校等の学校による事業	1.1% (2 市町村)
その他	10.6% (19 市町村)

○啓発用チラシを用いた、市町村教育委員会訪問や障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊において働きかけを行った。

3 生涯学習推進センターにおける相談支援や情報収集・提供体制の活用

○生涯学習推進センターの相談支援や情報収集・提供体制を活用した仕組みの構築を関係機関と連携しながら構築するための検討を行った。

○その在り方を検討するため、教育だけではなく、福祉・医療・労働分野へのヒアリング調査を継続的に実施した。

障害者の生涯学習の充実に向けて

平成 26 年の障害者権利条約の批准等も踏まえ、誰もが障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、地域における持続的な学びの場を整備することが求められています。

道内各地の現状と課題

道教委では、令和 3 年度から 2 か年で、全道 178 市町村の社会教育担当者等を対象とした研究協議会を開催し、障害者の生涯学習推進に関する基本的な考え方や先進事例について説明するとともに、障害の有無に関わらず、共に学ぶ場づくりを進めるための協議を行いました。その結果、取組の重要性への理解は進んでいるものの、実施をする上での課題も浮き彫りとなりました。



専門知識を持たない職員ばかりで、何から開始して良いのか分からない

障害者がどのような学習を希望しているのか、ニーズを掴みかねている

医療、福祉、学校、企業等、多様な団体との協力体制の構築が必要である

学びたいのに、学べない方が沢山います

文部科学省が平成 30 年度に行った、「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因に関する調査研究」によると、次のような調査結果が出ています。

- ・「一緒に学習する友人、仲間がいない」71.7%
- ・「学ぼうとする障害者に対する社会の理解がない」66.3%
- ・「知りたいことを学ぶための場や学習プログラムが身近にない」67.2%

また、道教委が主催する地域連携コンソーシアム会議では、学校卒業後に障害者ご本人が学びの場に参加するため、市町村教委による情報収集や情報発信の必要性についても議論となっています。

新たな取組に向けて、道教委の支援

道教委では、道内各地の現状と課題を踏まえて、令和 5 年度より、“障害者の学びを支援する人材の養成”や“モデルプログラムの開発”に加えて、“市町村の新たな取組へスタートアップ支援”も実施しています。

新たに取組を開始する場合や既存の取組を拡充する場合には、お近くの教育局にご連絡ください。



取組 8

読書や図書館等の利用や意思疎通に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施

読書バリアフリー法が成立し、障害者の読書や図書館等の利用に対する関心が高まっており、図書館で勤務する職員を対象とした研修の実施に加えて、地域住民の理解を促進するための啓発イベントを開催することで、障害者の読書環境の整備に向けた関係者や地域住民の理解を促進した。

1 北海道立図書館による各市町村図書館等における障害者の支援に関する研修

○令和5年度第4回網走ブロック公共図書館職員研修会（令和5年11月22日）

・テーマ 「障害者向けサービスについて」

・講師 北海道立図書館総務企画部企画支援課長 西岡 祐子

○令和5年度根室・釧路管内図書館協議会地方研究集会（令和5年11月30日）

・研修1 「高齢の方や障がいのある方への図書館サービスのあり方」

・講師 北海道立図書館総務企画部企画支援課主任 宮本 浩

○令和5年度全道図書館専門研修〈利用者サービス〉（令和6年1月26日）

・テーマ 「図書館職員のコミュカアップ！」

・講演 『『私と図書館』リレートーク～障がい当事者の声を聞く～』

・講師 障がい当事者講師の会すぷりんぐ会員（3名）

※上記の参加者は、公立図書館職員、市町村教育委員会職員、学校司書、教諭等で、3つの研修会をあわせて、79名

2 学校図書館担当職員に対する研修

○学校図書館の利用促進に向けて、特別支援教育の現状と課題、障害者の読書機会を充実させる上での合理的な配慮について研修を実施

・研修会名 令和5年度学校図書館担当職員講習

・テーマ 「特別支援教育の現状と課題」

・日時 令和5年8月28日（月）

・講師 専修大学文学部教授、放送大学客員教授 野口武悟氏

・参加 学校図書館担当職員、学校司書、市町村教育委員会職員等 54名

・内容 特別支援教育の現状・歴史・潮流、特別支援教育の教育内容・教育課程編成、支援ニーズに対応できる学校図書館づくり

3 アクセシブルな書籍の充実や活用に向けた啓発

○読書バリアフリー法の成立を踏まえて、地域住民が参加する「北海道子どもの読書活動応援イベント」等の機会を活用して、点字書籍や拡大図書等のアクセシブルな書籍の活用について啓発する機会を設けた。

○市町村教育委員会職員などが参加する「障害者の生涯学習理解促進キャラバン隊」においても、アクセシブルな書籍等の量的拡充や質の向上について説明を行った。

令和5年度学校図書館担当職員講習 実施要項

1 目的

学校図書館法第6条第1項及び第2項に基づき、学校図書館の利活用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員（学校司書）の養成に係る基礎講習を実施し配置促進に寄与するとともに、本道における学校図書館を担当する職員等の資質向上を図る。

2 主催

北海道教育委員会

3 対象

道内在住の学校司書、学校図書館を担当する職員（事務職員、実習助手等）・支援員等、図書館ボランティア、PTA等

4 定員

100名程度

5 講習期間及び日程等

- (1) 令和5年（2023年）7月26日～10月19日（各講義実施日約2週間後から、順次オンデマンド配信(令和6年1月末まで受講可能)）
- (2) 日程 ※ 詳細は別紙1講習概要で御確認ください。

実施日	講習名 【時間数】	内容
7/26（水）、 /31（月）	I 学校図書館基礎講習 【6時間】	1 学校図書館の理念と教育的意義 2 教育行政と学校図書館
省 略		
8/22（火）、 /28（月）	III 学校図書館担当職員が 知っておきたい学校教育 【4時間】	1 学校教育の意義と目標、学習指導要領等 2 児童生徒の心身の発達と学習過程 A（乳幼児～小学生）又はB（中学生～高校生） 3 特別支援教育の現状と課題 4 現代の学校と地域課題
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の理解と支援 ・特別支援教育をめぐる関係法規 ・インクルーシブ教育 		
9/12（火）、 /15（金）、 /21（木）	IV 学校図書館サービス力 向上講習 【6時間】	1,2 学校図書館の環境整備①②、広報・渉外活動 3,4 ガイダンス、レファレンス①② 5 児童生徒及び教職員への各種支援
省 略		

※オンデマンド配信:Zoom 実施日約2週間後～1月末迄

令和5年度全道図書館専門研修〈利用者サービス〉開催要項

1 趣 旨

図書館（室）は多様な利用者、多様な利用方法への対応が求められています。誰もが満足できるサービスを提供するためには、図書館を利用する方々と職員、または職員同士が、良好なコミュニケーションをはかることが必要です。本研修では、「相手の立場になって考える」という視点から、サービス向上のためにできる取組と心構えを学びます。

2 テーマ 「図書館職員のコミュニカ^{りょく}アップ！」

3 主 催 北海道図書館振興協議会、北海道立図書館

4 日 時 令和6年（2024年）1月26日（金） 9時50分から16時20分まで

5 開催方法 オンライン（Zoom ミーティング）

6 対象・定員

道内公立図書館（公民館図書室）職員、市町村教育委員会職員、学校司書、司書教諭、ほか学校図書館の運営等に携わる方

定員：30名

※一機関で複数の方が受講される場合は、一人に一台ずつ端末をご準備いただくようご協力をお願いします。ただし、定員を超えた場合は、一機関一端末等の調整を行う場合があります。

7 参加条件

- (1) Zoom に接続可能なネットワーク環境（有線 LAN 又は無線 WiFi）があること。
- (2) パソコン、タブレット、スマートフォン等 Zoom が使える機器（カメラ・マイクが使用できること）があること。
- (3) Zoom の招待を受け取るメールアドレスがあること。
- (4) パソコン等のカメラ・マイクを使用した演習に集中できる環境が用意できること。

8 内 容 別記「日程」のとおり

9 申込み

次のアドレスまたは二次元コードから指定のフォームで手続きをお願いします。
（注：電話・ファクシミリ・メールによる申込受付は行いません。）

<https://forms.office.com/r/Xf2AVGdtMX>

申込期限 令和6年（2024年）1月11日（木）



10 参加費

無料（北海道図書館振興協議会非会員市町村の職員は、資料代として1,000円が必要です。）

11 その他

- (1) Zoom ミーティングの ID は、申込みの〆切後、受講が決定した方にお知らせします。
- (2) 録画・録音はできません。アーカイブ配信も行いませんのでご了承ください。
- (3) 開催要項及び申込フォームのリンクは、図書館ポータルにも掲載しています。
北海道立図書館ホームページ>図書館ポータル>研修

12 問合せ・申込先

北海道図書館振興協議会事務局（北海道立図書館総務企画部企画支援課 担当：足立、畑中）
〒069-0834 江別市文京台東町41番地
電話（代表）011-386-8521 F A X 011-386-6906
電子メール shienka@library.pref.hokkaido.jp

日 程

時 間	内 容
9:30～	受 付 (Zoom ミーティング入室開始)
9:50～10:00	開 会
10:00～10:45	<p>講演「『私と図書館』リレートーク ～障がい当事者の声を聞く～」</p> <p>講師：障がい当事者講師の会すぷりんぐ会員 今田 雅子 氏 高橋 めぐみ 氏 三井 愛子 氏</p> <p>■すぷりんぐとは (ホームページから抜粋) 札幌市社会福祉協議会「障がい者講師養成講座」を修了した有志で設立したボランティア団体です。 たとえ、病気や障害を負っても、周囲の理解があれば、共に歩んで行くことができる——。私達、障害当事者講師の会すぷりんぐは、今、すでに病気や障害を持って日々暮らしている生の声を社会にお伝えするため誕生しました。</p>
10:45～10:55	質疑応答
10:55～11:05	休憩
11:05～12:00	<p>グループ協議・情報交換</p> <p>講演を受けて、各館の障がい者サービスに関する現状や問題点を振り返り、今後のより良いサービスのあり方を考えます。</p> <p>※ブレイクアウトルーム機能を利用</p>
12:00～13:00	昼休み
13:00～13:15	Zoom ミーティング再入室
13:15～16:15	<p>講義・演習「短時間で信頼関係を築く。ANA 流ビジネスマナー研修」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 「相手」との信頼関係を築くために ・ マナーの実践 ～4つの基本～ ・ まとめ ～成長し続けるために <p>講師：ANA ビジネスソリューション株式会社専属講師 森 正美 氏</p> <p>ANA の客室乗務員が機内で実践している取り組みをベースに、マインドとスキルの両面から「相手と短時間で信頼関係を築く」ことのできるメソッドを実践的に学びます。</p>
16:15～16:20	閉 会

北海道子どもの読書活動応援イベント 実施報告書

1 事業概要

- ・目的：北海道子どもの読書活動推進計画〈第五次計画〉に基づき、北海道のすべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校等の連携を進め、積極的にその環境整備を図るとともに、障害の有無に関わらず、自身の課題解決や学びのための自発的な読書活動を行うことができるよう、読書活動の普及啓発を行う。
- ・連携団体：北海道立図書館（共催）、石狩市民図書館（協力）、読み聞かせボランティア子っ子の会（協力）
- ・日時：令和5年11月3日（金）10：00～15：00
- ・会場：札幌駅前通地下広場 北大通交差点広場【西】
- ・対象：幼児から大人まで
- ・参加者：約300名

2 内容や活動の様子

- (1) 北海道青少年のための200冊の紹介
道内のプロスポーツチームに所属している20名の選手が動画でお勧めしている本を展示。手に取って読んでいる方が多かった。
- (2) バリアフリー図書の紹介
布絵本や点字絵本など、小さい子どもから大人まで手に取って読んでいる方が多く見られた。その場で読み聞かせをしている親子もいた。
- (3) 缶バッジづくり体験、しおりづくり体験
誰でも簡単に制作できる体験コーナー。多くの子どもが参加した。
- (4) 絵本の読み聞かせ
石狩市民図書館で活動をしている「読み聞かせボランティア子っ子の会」の協力のもと、音楽や歌を交えての読み聞かせを実施。幼児から大人まで様々な年齢層が参加した。
- (5) 高校生ビブリオバトル
石狩管内の高校生4名が出場した。会場の観覧者が審査員となりチャンプ本を選出。
- (6) 北海道立図書館利用登録会
アクセシブルな電子図書も利用できる道立図書館の利用登録とデモ体験会。



3 運営上の留意事項（実施した配慮や工夫など）

- ・車椅子の方でも通りやすいよう会場のレイアウトを工夫した。
- ・バリアフリー図書のうち布絵本については、子どもの目線に合わせて、低い位置で展示した。
- ・読み聞かせは、会場の照明を明るく、音声はスピーカーで大きくして、参加者が見やすく聞きやすい環境づくりを工夫した。

4 参加者からの感想

- ・読み聞かせでは、絵本の読み聞かせだけでなく、音楽や歌、エプロンを舞台にした人形劇など、楽しい時間を過ごすことができた。
- ・点字のついた絵本を初めて見た。障害の有無に関わらず誰でも楽しめる工夫がされていた。
- ・普段本を読まないが、高校生ビブリオバトルに出場してみて、本の良さについて改めて知ることができた。



5 成果と課題

■成果

- ・札幌市地下歩行空間を会場とすることで、誰でも気軽に立ち寄ることができた。
- ・バリアフリー図書を展示し、実際に触れることで、子どもから大人まで、誰でも点字図書や布絵本などについて理解を深めることができた。
- ・道立図書館の利用登録会を実施することで、江別市まで行かなくても電子図書の利用登録をすることができた。



■課題

- ・高校生の不読率が高いという現状が続いており、ビブリオバトルに参加する高校生が少なかった。読書活動の活性化のためには、さらなる継続的な取組が必要であり、今後もビブリオバトルの効果について普及・啓発を図る必要がある。
- ・当日に障害者の参加数を正確に把握することが、困難だった。また、社会福祉協議会など、障害者支援に関わる団体に参加を促すなど、働きかけが必要である。





北海道 / チカホで!! 子どもの読書活動 応援イベント

令和5年
11月3日 (金)
文化の日
10:00~15:00



ぶっくんも登場!!



缶バッジづくり体験
しおりづくり体験

- ①10:00~ ②11:00~
- ③12:00~ ④13:00~



チカホでまっま〜す

楽しい歌や楽器の演奏と素敵な読み聞かせ

子どもの会
読み聞かせボランティア
「子っ子の会」公演

- ①10:30~ (小学生向け)
- ②11:30~ (幼児向け)



北海道青少年の
ための200冊
紹介コーナー

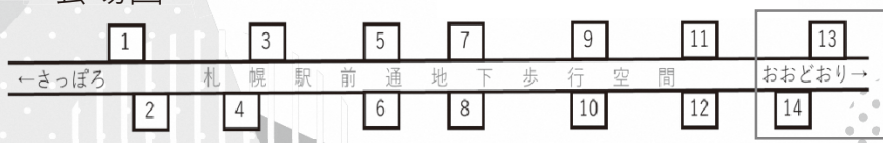
布絵本の展示
コーナー

高校生による熱い書評バトルを間近で!!
矢的書評合戦
ビブリオバトル 14:00~

道立図書館
利用登録
コーナー

バリアフリー
図書の展示
コーナー

<会場図>



→ 地下鉄南北線大通駅改札7番出口 →

主催：北海道教育委員会 共催：北海道立図書館

<問合せ先> 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課地学協働推進係 Tel 011-231-4111 (内線35-523)

3 成果と課題

1 成 果

- 地域連携コンソーシアム会議において、地域における学びの体制構築に向けて、全道各地の現状や課題を踏まえた今後の方策について協議を深めることができ、協議内容をもとに市町村教育委員会や社会教育施設向けのリーフレットを作成することができた。

(次年度、道立の社会教育施設で、先行してモデル的に取組を行う予定である。)



- 教育だけでなく、医療・福祉等の多様な団体が連携・協働するモデルプログラムを実施することで、今後、全道各地で取組を行う上での企画や運営上のノウハウを蓄積するとともに、事業に関わった団体の連携・協働の関係性を強めることができた。
- 共生社会コンファレンス in 北海道を開催して、障害者本人による学びの成果発表、学びの場づくりに関する好事例の共有など、障害者の生涯学習活動に関する実践交流や研究協議を行い、障害理解や関係者の学び合いを促進し、生涯学習を推進する担い手の育成、障害者の学びの場の拡大を行うことができた。
- 北海道立生涯学習推進センターによる全道各地の取組に対するヒアリング調査や、先進的な取組をしている施設・企業・団体における取組の現地調査を通して、市町村等における障害者の学習支援の体制構築に向けた今後の方策を考察する上での基礎資料を得ることができた。
- 多様な主体による学習プログラム構築事業や学びの支援入門講座などの開催を通して、障害者の学校卒業後の学びの充実に向けて、特別支援学校等の学校においても、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の仕組みを活用した学校づくりを進めることの重要性について、理解を得ることができた。
- 医療法人稲生会への再委託を行うことで、広域な北海道において移動に困難な方が居住地に関わらず参加できる、ICTを活用した定期的な学習機会を提供することができたほか、アイヌ文化を学ぶバスツアーを実施することで、社会教育施設等を活用した取組を行う際の合理的配慮や連携体制について検証することができた。
- 本取組を全道各地で展開するためには、地方公共団体の職員をはじめとして、多くの関係者の理解が必要なことから、大学等の高等教育機関や地域で活動される団体からの協力を得て、オンライン形式で行う入門講座や、各地域を巡回して行うキャラバン隊など、今後学びの場づくりを中核となって進める人材の育成を行うことが

できた。そのことにより、地域が連携・協働して、学びの環境づくりを行う上での地域の機運を醸成することができた。

○学校卒業後の障害者が学びの場への参加を促進するため、北海道教育推進計画に障害者の生涯学習に関する情報の収集・把握を推進指標に設定することや啓発チラシを用いて、市町村教育委員会に対して働きかけを行うことによって、地方公共団体の理解を促進することができた。

○市町村立図書館や学校図書館の職員を対象とした学習機会を設けることで、障害者の読書活動の充実や図書館等の受入体制の構築に向けた理解を深めることができた。地域住民が参加するイベントを活用して、アクセシブルな書籍の活用についても理解を促進することができた。



2 課題

○取組を行えていない地方公共団体においては、下記のような課題が残るため、継続的な働きかけや支援が必要である。

- ・依然として「障害者支援＝福祉分野の施策・取組」という行政内部の役割分担の先入観が根強いこと、社会教育分野を含めた幅広い人材に対する理解を促進する取組の継続が必要である。
- ・障害者の生涯学習に関する先進的な実践やノウハウは、医療や福祉のNPO団体や、大学等の高等教育機関が蓄積していることが多いこと、社会教育の分野が、医療・福祉・労働分野や学校教育との連携を強化するための働きかけをする必要がある。
- ・「障害者の学習支援の経験が少ない」社会教育施設も多く、障害者を対象とした事業の実施や、誰もが障害の有無に関わらず学ぶことができる環境の整備に向けて、人材養成やスタートアップ支援が必要である。

○障害者の生涯学習の取組を通して、障害の有無に関わらず、誰もが生涯を通して学び続けることのできる環境を整備し、真の共生社会を実現することが必要である。

令和5年度「障害者の生涯学習支援体制構築モデル事業」実施報告書
令和6年(2024年)3月発行

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課
〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 電話 011-204-5994